

会 議 録				
平成27年度第1回 生活支援事業協議体	日 時	平成27年5月27日（水） 午前10時30分～12時30分	場 所	小金井市前原暫定 集会施設1階会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	高良委員長（東京学芸大学） 森田副委員長（また明日デイホーム） 近江屋委員（ボランティアセンター） 阿久津委員（地域福祉コーディネーター） 清水委員（民生委員児童委員協議会）		
	事務局	第1層コーディネーター 本山（介護福祉課 包括支援係）		
		第2層コーディネーター 松嶋（小金井きた地域包括支援センター） 鈴木（小金井きた地域包括支援センター） 金子（小金井ひがし地域包括支援センター） 中村（小金井みなみ地域包括支援センター） 雨宮（小金井にし地域包括支援センター）		
		本木、萩（介護福祉課 包括支援係）		
その他	長谷川（介護福祉課 包括支援係） 安齋理学療法士（東京都健康長寿医療センター）			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 生活支援体制整備事業の概要と方針について				
3 協議体委員自己紹介				
4 委員長・副委員長選出				
5 議題				
(1) 地域課題の抽出について				
(2) 各委員が捉えた地域特性と課題の共有				
(3) 小地域ケア会議での取り組みについて				
(4) 「時間通貨」体験ゲームキットの活用				
6 その他（次回の予定）				
7 閉会				

4 委員長・副委員長選出

- ・ 近江屋委員が高良委員を委員長に推選。「異議なし」と声あり。委員長は高良委員に決定。
- ・ 清水委員が森田委員を副委員長に推選。「異議なし」と声あり。副委員長は森田委員に決定。

5 議題

(1) 地域課題の抽出について

- ・ 理学療法士から「65歳以上の要介護・要支援の方を除いて実施している基本チェックリストのデータ、実際、地区でどのような特性があるのかというのを、マップに落としました」という説明があった。この手法より地域ごとに、性別、後期高齢者、運動器、栄養、口腔、閉じこもりの出現率が把握でき、地区ごとのリスクが明確化されるとの説明がなされた。
 - ・ 委員から「運動器と閉じこもりは、どのように関係しているのか。」という質問があった。
- これに対し、理学療法士から「一概には言えないが、閉じこもりの多い地域は運動器も落ちている傾向がある。」という回答があった。
- これに対し、委員長から「日ごろからの皆が把握している社会資源であるとか、活動であるのかというものも全部関連し合いながら、どういったところを広めていったらいいのか、もしくはどういったところがこの状態を引き起こしているのかという分析が今後また必要になってくるのではないか。」という意見があった。

(2) 各委員が捉えた地域特性と課題の共有

各包括より発表あり。

- ・ 小金井みなみ地域包括支援センター

地域の特徴：坂上と坂下に分かれている。緑が多い地域と、小中規模の公園が少ない地域とが点在している。坂道や大通りを外れた道は夜道が暗くて、交通量はその割に多く、歩道が狭い道が多くある。バスの利用が中止になっている地域があったり、市内巡回のC o C oバスの利用も多い。

地域資源：老健施設が2カ所。有料ホームや高齢者住宅、認知症通所デイ、あとは通所介護、老人会が5カ所あり、町内会が数多く組織されている。

民間の地域資源：交番が4カ所、郵便局が3カ所、保育園・幼稚園が6カ所、小学校が2カ所、中学校が1カ所、高校、専門学校が1カ所。集合所や会館は3カ所。

課題：坂道が多いため、高齢者が生活しやすいような網目状の交通が必要。少し座りたいときに腰かけられる場所が少ないため、出かけるのがおっくうになってしまうという声あり。移送サービスが少ない。高齢者が多く利用するC o C oバスは、利用に合った回数が少ない、有料である、迂回が不十分である。生活面においては買い物を

する場所が少なかったりすることも感じている。宅配してくれるようなところがあるが、まだまだ不十分。医療機関については、地域内に専門医が少なく、往診してくれるところも少ない。特に認知症サポーター医が少ないように感じる。ごみ出しの方法がエリアによって異なるところもあり、統一がされていないので、出しにくさを感じている方もいる。ひとり暮らしの高齢者が気軽に行ける地域の中の「居場所」のような拠点が少ないと感じる。

- ・ 小金井きた地域包括支援センター

地域の特徴：マンションがすごく増えている。割と平地なため、移動が楽。バスが充実。C o C oバスのアクセスもわりと良い。地域包括ケアとか、在宅とか、訪問診療に熱心なクリニックが3カ所。

地域資源：病院が1つ、医院やクリニックは19。歯科医院も13。訪問看護ステーションは2つ。スーパーは、大規模が1つ、中規模が1つ、小規模が1つ。介護系も居宅介護支援事業所が7、デイが7、ヘルパーが6。公的な機関としては、公民館の分館が2つ。大学は、法政大学、高校は、都立高校と、電気大学の高校があり、若い人が多く活気がある。それは、いろいろな可能性に繋がる。

課題：私たちのアセスメント不足など、GPSのデータと実感している情報と合わせて、検討していくこと。梶野町に関しては、相談が少ないが、民生委員に欠員があることも関係するかもしれない。集会所がないため、現在、さくら体操の自主グループの使用する会場が、婦人会館のみ。地主が多くて、同居率が高いのと、昔ながらのつき合いが多く、いい意味での古いよさがある。社会資源が少ないことから、閉じこもりが心配。

- ・ 小金井ひがし地域包括支援センター

地域の特徴：病院が多い。民生委員も協力的で、ネットワークを通じたいろいろな相談をしたり、逆に相談を受けることもある。2世帯住宅が多く、訪問しても、子供世代が対応して、本人に会えず、高齢者の特徴が見えづらかったりというところがある。さくら体操の自主グループが沢山有り、住民力を実感し、町会の催し物など、町会の方々も協力的で、地域の力も感じている。スーパーとかではなく、なじみの決まった店を指定して買い物を頼む傾向がある。

課題：東町1丁目は特に戸建てが多く、独居が多いことが心配。坂下地域と東町1丁目はC o C oバスがなかなか流通しておらず、買い物難民が多くいる。空き家が多く、防犯上心配。ひがしエリアは居宅介護支援事業所が少ない。自治会によっても温度差はある。特に最近だが、駅中のお店が開発されたことによって、その周辺の商店街が苦しいという声あり。人が集まれるような場所、何か行う場所が少ない。特に東町1丁目と3丁目の住民については、孤立というか、市まで相談に出向けないところが課題。特にバスの流通がないので、市まで出てこれず、相談自体、渋っ

てしまい、孤立傾向がある。

- ・ 小金井にし地域包括支援センター

地域の特徴：西は国分寺、北は小平市に隣接している。坂が少なく、ほぼ平坦地、学芸大学を中心とした広大な緑地を有し、玉川上水や仙川が流れている。郊外は戸建てが多い。昭和30年代に建設された公団住宅がある。商業施設は、武蔵小金井駅周辺にあり、郊外には商店街が少ない。公共施設は、交番、郵便局、小学校、中学校、公民館、図書館、集会施設、運動公園などがある。最近、きたまちセンターという集会施設が新たに建ち、地域住民が活用。

課題：公団住宅を中心に支援を要する高齢者が増加しており、地域住民が安心して暮らすことのできる体制の整備が求められている。

(3) 小地域ケア会議での取り組みについて

- ・ 委員から平成25年度に開催した小地域ケア会議の事例を発表。当該会議において、「“どんな物（者）、どんな事”があったら安心して暮らせるか？」というテーマに関して、課題として①見守り支援 ②居場所 ③日常生活サービス ④通院・服薬支援 ⑤交通に関するもの ⑥環境整備という意見が挙げた。」との報告があった。
- ・ 別の委員から「全体を通して、課題に感じられるのは、買い物が困難、C o C oバスが使いづらい、居場所が少ないなどがあり、縦のつながりができるような、多世代で、いろいろな方々が自然と集えるような、そういった居場所の必要性がある。」という意見があった。

(4) 「時間通貨」体験ゲームキットの活用

- ・ 委員から「小さな支援で地域を支える支援者になれるという事を体験できるゲームになっており、活用していただければと思います。」という意見があった。

6 議題

- ・ 事務局から、次回の会議は7月を予定している点を確認された。